

令和7年度 長崎県立西彼農業高等学校 学校評価表

教育方針	長崎県教育方針に基づいて、高等普通教育と農業・家庭に関する専門教育により、専門的知識や優れた技術を身に付けさせるとともに、豊かな自然を守り、命の尊さや個人の尊厳を重んじ、公共の精神を身に付け、我が国や世界の平和と発展に貢献しようとする調和のとれた人間を育成する。
学校教育目標(目指す理想像)	<p>①学校像 保護者や地域から信頼され、元気な笑顔と思いやりに溢れた校風と開かれた学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生きる力を養成し、新たなことにチャレンジ</li> <li>○笑顔と元気なあいさつ、コミュニケーション</li> <li>○思いやりに溢れる魅力的な校風、訪問したい学校</li> </ul> <p>②生徒像 命を育み、命の大切さを体感して自他共に尊重し、多くの経験をとおして自信を持ち、社会で活躍できる生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習や様々な活動により、前向きに発展させる意欲</li> <li>○進路や将来の目標に向けて積極的に取り組み実現</li> <li>○社会の一員として自己認識し、貢献できる人格形成</li> </ul> <p>③教職員像 お互いに支援協働し、保護者や地域と連携しながら全ての生徒に効果的な指導ができる教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いを尊重し、働きやすい職場づくりの推進</li> <li>○協働し、諸課題を解決していくチームワーク</li> <li>○心身共に健康で人間性に溢れ、信頼される教職員</li> </ul>
本年度の努力目標	<p>(1)学習の指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学力や技術を習得する中で自信を持ち、発展的に応用できる能力を養成する。</li> <li>○先進機器や教材を効果的に活用し、社会で利用する知識や技術を身に付ける。</li> <li>○継続的に学ぶ重要性を認識させ、家庭や進路学習、また生涯学習に繋げさせる。</li> <li>○キャリア教育を推進し、積極的に資格取得やインターンシップに取り組ませる。</li> <li>○国内外情勢について役割を認識させ、実社会で生きていく思考判断を養成する。</li> </ul> <p>(2)生徒への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○規範意識や自己肯定感を高めさせ、社会の一員として生きていく力を養成する。</li> <li>○教育相談、特別支援教育の充実にも努め、丁寧できめ細かい支援を行う。</li> <li>○多くの学習や体験により将来の目標をイメージさせ、個々に合わせた対応を行う。</li> <li>○優しさや思いやりに醸成し、いじめや暴力、差別や偏見の無い認め合う心を育てる。</li> <li>○美化や安全衛生に対する意識を持ち、基本的な生活習慣をと共に健康管理する能力を養う。</li> </ul> <p>(3)学校の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の教育や地域交流の場として、利活用できる施設・設備の運営に努める。</li> <li>○信頼される学校運営に努めるとともに、地域に誇りと愛着を持つ教育を展開する。</li> <li>○教職員自らが先進性や発展性を持ち、生徒へ影響力のある教育を展開する。</li> <li>○教職員が情報共有した理解のもとに、働きやすい学校運営を展開する。</li> <li>○教職員が協働できる学校運営により、校内外により効果的な教育活動を継続する。</li> </ul>

※「評価」の各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。

4:十分達成できている

3:おおむね達成できている

2:どちらかというと達成できていない

1:ほとんど達成できていない

【評価分野】 1 学校経営									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題		
学校教育目標	教育目標(目指す人間像)の明確化	教務	学校教育目標を学校内外に明確に示し、90%以上の保護者とその目標を理解してもらうことを目指す。	・育友会総会、評議員会で説明する。 ・HP等を使って広報に努める。	教育目標を理解している保護者が90%以上であった。	4	○	教育目標を示すタイミングとして育友会総会があるが、出席率も低く、配布される資料を見ていただいているかは難しいと思われる。評価は「3.3」と昨年度よりも0.2ポイント増えている。今後も、新入生オリエンテーション等で丁寧な説明を心がける。	
					教育目標を理解している保護者が80%以上であった。	3			
					教育目標を理解している保護者が70%以上であった。	2			
					教育目標を理解している保護者が70%未満であった。	1			
【評価分野】 2 教育活動									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題		
道徳・人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	相談	学校からいじめを撲滅するため、学期毎に年3回の「いじめ・悩みアンケート」を実施し、いじめの早期発見を目指す。	・アンケート結果をもとに、学級担任・学年・生徒指導部と連携しながら該当生徒への面談を実施する。 ・「いじめ・悩みアンケート」の内容を生徒が記入しやすいように工夫する。	計画どおりアンケートを実施し、早期発見に十分効果があった。	4	○	悩み調査から、悩みを抱えている生徒への面談をスピーディーに行うことができ、早めに対応することができた。また、悩み調査だけではなく、日頃の学校生活の中の生徒の変化を見逃さず、その都度面談を実施し、職員間で共通理解し、生徒に関わることができた。	
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があった。	3			
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があがらなかった。	2			
					計画どおり実施出来なかった。	1			
教育相談	カウンセリングの充実	相談	悩みを抱えている生徒や、支援を必要とする生徒への組織的な対応の充実を図り、早期対応、早期解決をする。	・対象生徒の面談結果をふまえ、生徒・保護者へ適切な指導・助言を行う。 ・様々な生徒指導上の課題に対応するためSSWと連携を図りながら校内の教育相談体制を充実させる。	適切に対応ができ、十分な効果があった。	4	○	・SSWと職員との調整をスムーズに行うことができ、外部機関と連携し、生徒・保護者を支援することができた。	
					適切に対応ができ、おおむね効果があった。	3			
					適切に対応が十分にできず、効果もあまりみられなかった。	2			
					適切に対応ができなかった。	1			
進路指導	進路指導の充実	進路	生徒一人ひとりの進路実現を図り、1月末の進路決定率90%以上を目指す。	・1・2年生は、学期に1回の進路調査を行う。進路セミナー、ガイダンスを開き啓発に努める。 ・3年生については、定期的に担任会を開き、進路検討を行う。 ・きめ細かい個人面談、添削指導を行う。	計画どおり実施し、進路決定率90%以上を達成した。	4	○	・3年生は46名(全生徒48名)の進路を確定することができたため、進路決定率は95.8%となった。 ・就職に関しては、新規の企業の選考で複数名が内定をもらえなかった。 ・1・2年生には念2回の進路説明会を計画し、居城意識の向上に努めた。	
					計画どおり実施し、進路決定率85%以上を達成した。	3			
					ほぼ計画どおり実施したが、進路決定率が80%以上であった。	2			
					計画どおり実施できず、進路決定率が75%未満であった。	1			
	特別活動	読書活動の推進	図書	図書の貸出冊数が生徒一人当たり2冊以上になることを目指す。	・各学年の図書委員がお勧めする図書の紹介(図書だより)を各学期に2回発行する。 ・月ごとに最多貸出学級を紹介する図書だよりを発行する。 ・計画的な図書購入を行い、図書の充実を努める。	生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊以上であった。	4	○	・生徒一人当たりの年間貸出冊数は2.1冊であった。 ・図書だよりを学期に2回発行できた。 ・毎月最多貸出学級を紹介した。(年間通じて1Sが1位) ・計画的な図書購入ができた。
						生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊であった。	3		
						生徒一人当たりの年間貸出冊数が1冊であった。	2		
						生徒一人当たりの年間貸出冊数が0冊であった。	1		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒指導	遅刻者数を昨年度より、30%以上減少させる。	・全校集会時に「時間厳守」の重要性について指導する。 ・学期初めの3週間、全職員における登校指導を行う。 ・遅刻常習者については、担任、生徒指導部と連携して個別に指導を行う。	遅刻者数が昨年度より30%以上減少した。	4	○	・図書司書にはとてもお世話になっています。年間を通じて、行事に合う催しや飾りつけを行ってくださいます。生徒にもとても評判がよいです。 ・遅刻常習者に対する個別指導が甘かったため次年度は強化していきたい。	
					遅刻者数が昨年度より20%以上減少した。	3			
					遅刻者数は昨年度とほぼ同じであった。	2			
					遅刻者数が昨年度より増加した。	1			
	社会性規範意識の涵養	生徒指導	品位ある服装を指導し、90%以上の生徒が高校生らしい服装をしていることを目指す。	・服装、頭髮検査を毎月1回行う。 ・職員の見直しを行うために、研修会を学期に1回行う。 ・校則違反については、イエローカード指導を徹底する。	高校生らしい服装をしている生徒が90%以上であった。	4	○	・年間を通して服装に関して全職員協力して指導することができた。 ・来年度から新制服にあわせて校則の見直しを行っている。来年度は制服・校則ともに一新され生徒にとって充実した学校生活と校風を作る一助としたい。	
					高校生らしい服装をしている生徒が80%以上であった。	3			
					高校生らしい服装をしている生徒が70%以上であった。	2			
					高校生らしい服装をした生徒が70%未満であった。	1			
美化や安全衛生	農務	美化や安全面に対する意識を持つ生徒が90%以上になることを目指す。	・更衣室が整理されるよう指導する。 ・道具の管理を徹底する ・特に実習時のケガ、事故がないよう指導する。	美化・安全衛生意識を持つ生徒が90%以上であった。	4	○	ほとんどの生徒は、更衣室の使用や実習服の持ち帰りもできているが、一部の生徒が検査前の持ち帰りができていなかったり、安全な実習の配慮に欠けたところが見られた。		
				美化・安全衛生意識を持つ生徒が80%以上であった。	3				
				美化・安全衛生意識を持つ生徒が70%以上であった。	2				
				美化・安全衛生意識を持つ生徒が60%以上であった。	1				

部活動	部活動の活性化	農業クラブ	部活動の活性化と定着化を図るため、全校生徒の活動率80%以上を目指す。	・生徒には、部活動の意義や目的、継続の意義を理解させる。 ・部活動調査を定期的に行い、体育部・文化部・専門部の活性化を図る。	部活動活動率が80%以上であった。 部活動活動率が70%以上であった。 部活動活動率が60%以上であった。 部活動活動率が60%未満であった。	4 3 2 1	○ ○ ○	夏場の熱中症対策で総合運動部は活動を見合わせざるを得なかった。ソフトテニス以外の総合運動部については1・2月は各種行事が重なったため活動日を確保することができなかった。	
生徒会活動	生徒会活動の充実	農業クラブ	農業クラブ活動を理解させるため、各行事、大会の案内、報告を毎月1回掲示する。	・生徒玄関の掲示板や、外掲示板を活用し、生徒へ情報を発信する。 ・生徒の主体的活動を促し、農業クラブの活動内容を積極的に広報する。	月1回の掲示ができ、広報内容も充実していた。 月1回の掲示はできたが、広報内容が不十分であった。 月1回の掲示ができず、広報内容が不十分であった。 計画的な掲示ができず、広報内容も不十分であった。	4 3 2 1	○ ○ ○	県連・九連・日連関係の広報はできたが、学校独自のことにしては不十分だった。	
健康教育	健康教育の推進	保健	基本的な生活習慣を見直し、毎日朝食を摂る生徒が90%以上になることを目指す。	・学期毎に年3回、生徒の朝食摂取状況を調査する。 ・調査結果は、保健だよりで生徒、保護者へ周知するとともに、ポスターで意識の向上に努める。	毎日朝食を摂る生徒が90%以上であった。 毎日朝食を摂る生徒が80%以上であった。 毎日朝食を摂る生徒が70%以上であった。 毎日朝食を摂る生徒が70%未満であった。	4 3 2 1	○ ○ ○	・昨年度よりも朝食を摂る生徒が増えたが、時間がない、食べる習慣がない、食欲がないという理由で朝食を摂らない生徒が一定数おり、年間を通して大きな変化はなかった。	
環境教育	環境教育の推進	環境美化	環境教育を積極的に推進するため、教室の整理整頓及びゴミの分別を徹底させる。	・毎日の取り組みとして、①掃除をはじめに美化、生活委員が教室等のゴミ箱の点検を行う。②ゴミは掃除担当等の生徒が、すぐゴミステーションへ持って行く。③美化委員がゴミステーションでのゴミの分別を行う。	充分できた。 だいたいできた。 あまりできなかった できなかった	4 3 2 1	○ ○ ○	・ゴミ回収業者に指摘を受けることはなかったが、クラスでのゴミ分別は指導を要する点がみられる。	
教科指導	専門教育の充実	農務	キャリア教育を推進させる。	・外部講師等による教育の推進 ・校外見学研修等の実施	各科6回以上実施した。 各科5回以上実施した。 各科4回以上実施した。 各科3回以上実施した。	4 3 2 1	○	今年度は、予定であった講習会等のすべてを実施できた。産業エキスパート事業に関しては、13講義(26時間)の実施であった。	
専門教育	資格取得の充実	農務	・3年間で農業系の資格取得をした生徒が80%以上になることを目指す。	・専門の授業の中で資格取得の大切さを教え、取得に向けての指導を各科目で行う。	1つ以上の資格を取得した生徒が80%以上であった。 1つ以上の資格を取得した生徒が70%以上であった。 1つ以上の資格を取得した生徒が60%以上であった。 1つ以上の資格を取得した生徒は50%以上であった。	4 3 2 1	○	令和7年度卒業生48名のうち、農業技術検定14名、家庭科技術検定23名、その他の資格を合わせ、未取得者は6名であった。(87.5%)	
【評価分野】 3 組織運営									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
校内研修	教職員の資質向上への取り組み	教務	教員の教科指導力を向上させるため校内研修を実施し、「わかる授業」を展開する。	・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・校内研修を実施し、授業の改善を図る。	計画どおり実施でき、充実した内容であった。	4	○	アンケート結果は、生徒3.3、保護者3.2と生徒は0.1増、保護者は0.2増とよい結果を残した。生徒の実態を踏まえた日々の先生方の授業改善がなされている。	
					計画どおりに実施できたが、まずまずの内容であった。	3			
					計画どおりに実施できたが、十分な内容ではなかった。	2			
					計画どおりに実施できず、不十分な内容であった。	1			
【評価分野】 4 教育環境									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
学校環境の整備	学校環境の美化	環境美化	校舎内外の美化を徹底する。各学期に3回以上の大掃除をする。	・大掃除のときに、毎日行っている掃除で出来ていないところを中心に取り組ませ、美化委員に点検させる。	充分取り組んでいた。	4	○	・週に一度の清掃状況点検を行い、環境美化に対する意識を高めることはできたが、清掃や教室整備の不十分な点がみられた。	
					だいたい取り組んでいた。	3			
					あまり取り組んでいなかった。	2			
					取り組んでいなかった。	1			
施設・設備の管理	学校施設の充実と環境整備	事務	校内敷地巡視を月1回行い、危険・不備箇所を早期発見し、迅速に修繕・改修を行う。	・早期対応できるものは、直ちに修繕・改修に取りかかる。 ・予算要求を要するものは、1か月以内に予算要求する。	毎月巡視を行い、全てを修繕・改修できた。	4	○	危険箇所については、直ちに修繕・改修できた。次年度も予算の問題はあるが、できる限り早期に修繕・改修を行う。	
					毎月巡視を行い、予算要求中以外は改修・修繕できた。	3			
					毎月巡視は行なったが、改修・修繕できなかった箇所がある。	2			
					毎月の巡視が行えず、改修・修繕できなかった箇所もある。	1			

【評価分野】 5 開かれた学校づくり									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題		
保護者との連携	育友会活動の充実	教務	学校の教育活動に対する保護者の理解を深めるため、積極的に情報を発信し、三者面談、育友会、活動への出席率75%以上を目指す。	・育友会活動への参加を呼びかける。 ・メールメイトを活用して早期に案内を行う。	育友会活動と三者面談への平均出席率が75%以上であった。	4	三者面談は、参加率が高く97%ほどであるが、育友会の参加者数が44名で、27.3%と低かった。なので、双方合わせると63%となった。アンケートでは、3.2と数字を伸ばし、開かれた学校としての評価は良くなっている。		
					育友会活動と三者面談への平均出席率が65%以上であった。	3			
					育友会活動と三者面談への平均出席率が55%以上であった。	2			
					育友会活動と三者面談への平均出席率が45%未満であった。	1			
情報提供	情報提供の充実	情報管理	学校の教育活動・地域連携等の情報をHP上で月4回以上発信する。	・学校の教育活動において行事ごとに情報を発信する。 ・地域連携等の情報を積極的に発信する。	HPを月4回以上発信し更新できた。	4	情報部一丸となって、各種行事や農業の授業風景などを月平均10回程度発信することができた。		
					HPを月3回以上発信し更新できた。	3			
					HPを月2回以上発信し更新できた。	2			
					HPを月1回以上発信し更新できた。	1			
地域貢献	専門教育の地域貢献	農務	農業高校の教育力を示すため、県立学校地域開放講座で、参加者の満足度90%以上を目指す。	・最終日に受講者アンケートを実施する ・担当科目の専門性を高め受講者が満足していく教材を準備する。	大変に満足した割合が90%以上であった。	4	受講していただいた方からは、次のような感想があった。 ・家でも野菜や草花を育ててみたい。 ・お菓子作りは思っていたよりも簡単に良かった。 ・学校の施設や生徒たちの対応が良かった。		
					大変に満足した割合が85%以上であった。	3			
		農務		専門分野で生徒の農産物生産及び加工品製造を活用し、地域貢献をはかる	・農産物生産、製造実習では、商品販売を意識した実習を行う。 ・授業で生徒の理解度を深める。	大変に満足した割合が80%以上であった。		2	
						大変に満足した割合が75%以上であった。		1	
地域の農業高校としての存在価値	西海市と連携した研究活動の推進	農務	西海市と連携した農業科の活動を行う。	・希少植物の保護・移動動物園・草花の植栽活動・近隣学校との連携などの活動計画を立て、西海市に貢献できる活動を行う。	活動が十分取り組めた。	4	西海市役所販売を2回(7月・11月)実施し、農業文化祭や直売所の販売会でも学校生産物を販売することができた。		
					活動がほぼ取り組めた。	3			
					活動があまり取り組めなかった。	2			
					活動が取り組めていなかった。	1			
園児の芋掘り体験や移動動物園、西海市役所花壇の植栽、不登校生徒の体験活動など近隣の保育園、小中学校、西海市役所と連携し地域貢献を図ることができた。	園児の芋掘り体験や移動動物園、西海市役所花壇の植栽、不登校生徒の体験活動など近隣の保育園、小中学校、西海市役所と連携し地域貢献を図ることができた。	園児の芋掘り体験や移動動物園、西海市役所花壇の植栽、不登校生徒の体験活動など近隣の保育園、小中学校、西海市役所と連携し地域貢献を図ることができた。	園児の芋掘り体験や移動動物園、西海市役所花壇の植栽、不登校生徒の体験活動など近隣の保育園、小中学校、西海市役所と連携し地域貢献を図ることができた。	園児の芋掘り体験や移動動物園、西海市役所花壇の植栽、不登校生徒の体験活動など近隣の保育園、小中学校、西海市役所と連携し地域貢献を図ることができた。	充実感、達成感を感じた生徒の割合が80%以上で、その活動が地域に貢献した。	4			
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が70%以上で、その活動が地域に貢献した。	3			
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が60%以上で、その活動が地域に貢献した。	2			
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が50%以上で、その活動が地域に貢献した。	1			
【評価分野】 6 生徒の教育成果									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題		
学力の定着・向上	家庭学習の定着	1年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が50%以上になることを目指す。	学習時間が1時間未満の生徒および補講が必要な生徒は、次の考査前に放課後残して学習会を開き最低1時間学習させる。	1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	4	・回答率が25.5%と全員ではない評価となり、何とも言えない。課題を期限内に提出するという基本的なことが定着していない生徒がいることも今後改善する必要がある。放課後の居残り学習会は帰りのバスの時間等の事情もあり、なかなか実施が難しい。次年度では課題提出状況は改善できると思う。		
					1時間以上学習した生徒が40%以上であった。	3			
					1時間以上学習した生徒が30%以上であった。	2			
		2年			定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が70%以上になることを目指す。	1時間以上学習した生徒が30%未満であった。		1	
						1時間以上学習した生徒が70%以上であった。 76.5%		4	・3学期の学習時間調査は、回答率が22.4%のため、2学期以前の状況で判断した。考査前は、早く返すため放課後学習会が開催しにくかった。家庭で自学できる力が必要となる。 次年度は、3年生となり、1学期の評価が重要となうため、意識づけを強化したい
						1時間以上学習した生徒が60%以上であった。		3	
		1時間以上学習した生徒が50%以上であった。			2				
		3年			定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が80%以上になることを目指す。	1時間以上学習した生徒が50%未満であった。		1	
						1時間以上学習した生徒が80%以上であった。		4	・学習する意欲に差があり、意欲にかけ、計画的に学習が行えない生徒がみられる。そのような生徒に対しての、学年での指導を検討する必要がある。
						1時間以上学習した生徒が70%以上であった。		3	
		1時間以上学習した生徒が60%以上であった。			2				
		1時間以上学習した生徒が60%未満であった。			1				

# 令和7年度 学校評価(生徒及び保護者アンケート)集計結果

長崎県立西彼農業高等学校

評価項目	No.	評価内容	生徒		保護者	
			R6	R7	R6	R7
1. 教育活動	1	学校は、教育目標を保護者にはっきり示している。	3.1	3.3	3.1	3.3
	2	学校は、農業文化祭・体育祭等の学校行事が充実している。 (子どもは農業文化祭・体育祭等の学校行事を楽しみにしている。)	3.1	3.3	3.5	3.5
	3	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	3.0	3.3	3.0	3.3
	4	学校は、髪型・服装・生活態度等について熱心に指導してくれる。	3.5	3.6	3.3	3.5
	5	学校は、健康管理のための情報を提供してくれる。	3.1	3.3	3.0	3.3
	6	学校は、進路について生徒や保護者に必要な情報を提供してくれる。	3.3	3.4	3.1	3.4
	7	先生は、親身になって悩みや相談にのってくれる。	3.1	3.3	3.1	3.3
2. 学習活動	8	先生は、分かりやすい授業をしてくれる。	3.2	3.3	3.0	3.2
	9	授業の進度(速さ)は適切である。	3.1	3.3		
	10	先生は、教科に関する個人的な質問に熱心に対応してくれる。	3.2	3.4		
	11	先生は、適切な課題を与え、家庭学習の定着を図っている。	3.1	3.3	3.0	3.1
	12	学校は、読書活動に積極的に取り組んでいる。	3.3	3.3		
3. 教育環境	13	学校では、生徒・職員がともに意欲的に清掃活動に取り組んでいる。 (学校は、清掃が行き届き、いつもきれいである。)	3.2	3.3	3.2	3.3
	14	学校は、教育に必要な施設・設備が整っている。	3.1	3.2	3.1	3.2
	15	学校は、危険個所への配慮があり、安全である。	3.2	3.4		
	16	学校は、案内板や立て札等が整備されていて分かりやすい。			3.0	3.1
4. 開かれた学校	17	学校は、生徒の教育活動について積極的に広報している。			3.1	3.2
	18	育友会活動は、学校と連携して活発に行われている。			3.2	3.3
5. 自分(子供)について	19	学校には友達もいて、楽しく登校している。 (学校の雰囲気はよく、子供は楽しく登校している。)	3.5	3.6	3.3	3.4
	20	(子供は)髪型・服装等について高校生らしい身なりをしている。	3.5	3.4	3.5	3.5
	21	(子供は)社会のルールや学校の規則を守っている	3.4	3.5	3.5	3.5
	22	自分から進んであいさつしている。	3.1	3.4		
	23	積極的に部活動に取り組んでいる。	2.9	3.1		
6. その他	24	家庭では、子供(保護者)と友達や部活動、将来の進路等についてよく話をする。	3.0	3.1	3.3	3.4
平均			3.2	3.3	3.2	3.3

※表中の生徒と保護者の欄の数値は、下記の4～1の4段階評価の平均値である。

[4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない]

## 令和7年度長崎県立西彼農業高等学校関係者評価 報告

- 1 評価の実施期日・場所 令和8年2月25日(水) 本校 校長室
- 2 学校関係者評価委員 3名
- 3 学校関係者評価の内容
  - (1) 自己評価の結果について

### (進路指導の充実)

- ・昨今の生徒の職業選択におけるキーワードはお金と休日であるが、入社してすぐやめるような生徒は減っている。特に、入社試験を受ける前の企業見学を実施し、ミスマッチを減らす取り組みの効果が出ていると考えられる。また、仕事を早期退職する生徒の問題があげられたが、お金につられて入社する子供よりも、やりたいことをできる社員の方が残っていることが多く、本校はこの点がよくできている。

### (生徒指導の充実)

- ・地元の小学2年生の体験学習の受入れをしているが、本校生徒の児童への声掛けやあいさつが見られ、本校教育の高さをうかがうことができた。また、来年度からの新制服の導入にも期待している。

### (地域貢献)

- ・学校アンケートをみると、保護者の悩み、個別対応の良さ、進路指導の充実などの数値が向上している。また、親子の話し合いの機会を設けているなど特筆すべき点が多々見られる。地元の小学校などへの移動動物園、地元の農産物を活用した新商品開発、販売会への参加など地元のからも大きな期待が寄せられている。

### (学力の定着と向上)

- ・本校の検定受験においては、西海市からの補助が大きく寄与している。特に、在学中に多くの資格を取得することは、入社後にその資格を生かすことができることも多く、今後も漢字検定をはじめ専門性をいかした検定などの資格取得に取り組んでいきたい。

### (2) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みについて

- ・農業教育の醍醐味でもある命を大切にすること、勤労観や職業観の醸成、仲間とのかかわり方など、本校の教育力に対する評価を多くいただき、自信をもって今後も地域貢献などすすめていきたい。

さらに、西海市からの手厚い補助を活用しながら、学校の学びを深化させ、特に入学希望者が少ない生活デザイン科の中身、及び外向けのPRを強化していく必要を感じる。命の教育をとおして農業の魅力が生活デザイン科の新たな魅力として、多くの中学生やその保護者に伝わっていくよう努力したい。